

筑波大菅平高原センターが冬の「大明神の滝」見学ツアー

筑波大学菅平高原実験センターでは、社会貢献活動の一環として、一般人対象のイベント「冬の『大明神の滝』見学ツアー」を去る二月二十一日に開催した。

大明神の滝は、菅平高原実験センター敷地内を流れる沢にある落差約一〇メートルの滝。毎年十二月下旬から三月上旬にかけて凍った状態が見られるが、この場所が実験区域内であり、滝までの歩道も十分に整備されていないことから、非公開となっていた。

これまでに「凍った滝を見学したい」といった声が多く寄せられていたことから、今回、一日限りの公開イベントを企画。さらに、この時期ならではの自然を楽しんでもらおうと、アニマルトラッキングなどの自然観察を合わせて実施した。

募集を開始したところ問い合わせが殺到。定員を当初の六十名から八十名に増加させたものの、約一週間で申込みを締め切らざるを得ない状況となり、受け付けられなかった希望者も多数みられた。また、事前にも関わらず、信濃毎日新聞等の報道機関にも大きく取り上げられ、長野県内における関心の高さがかがえた。さらに、埼玉や神奈川など県外からの申込みもあった。

快晴に恵まれたツアー当日は、施設教職員がツアーに同行、動物の足跡や植物の解説等を行いながら参加者を滝まで案内した。当日

は、テレビ信州が撮影に訪れ、翌日の報道番組で放送された。

また、信濃毎日新聞及び上田ケーブルテレビも取材に訪れ、それぞれ大きく報道された。

参加者からは「スタッフの説明があつてとても充実した時間を過ごすことができた」「四季を通して今回のようなイベントを企画してほしい」といった声寄せられた。同施設では、今後もこのような社会貢献活動を積極的に続けていきたいとしている。



大明神の滝周辺を散策する参加者



テレビ局の取材を受けるセンター教職員